講演会

自分たちで企画・運営した講演会を振り返って

国際日本学部 国際文化交流学科(2年)

文化交流コース 林 結愛

下谷梓

「みんなで選ぶ」講演会に向けて

1

この構資会は国際日本学邦国際女とを危差斗の特別講演会が本学で行われました。 ンサルタントとしてご活躍される中島朋子さんのンサルタントとしてご活躍される中島朋子さんの

くことになったのです。 お持ちの中島さんを講演者に推薦しました。そし ピンやウガンダのユニセフ事務所での勤務経験を 験に基づくお話、またコロナ禍での交流の仕方に 分たちが興味を持って主体的に参加できるような 交流あるいは多文化共生というテーマのもと、 んなで選ぶ」講演会として企画されました。文化 く!多文化共生の姿」と題し、 チームが優勝し、「UNICEF コンサルタントに聞 て企画コンペでは、15の企画の中から私たちの ついてアドバイスをお聞きしたいと思い、 した。私たちのチームでは現地の実際の声や実体 講演会を考え、グループごとにプレゼンを行いま 「文化交流コース演習」という授業において「み この講演会は国際日本学部国際文化交流学科の 講演をしていただ フィリ

本企画は前学期から準備を重ね、講演者との

打ち合わせを行い、講演内容を決定していきました。講演内容は二本立てで、一つ目はウガンダとた。講演内容は二本立てで、一つ目はウガンダとた。講演内容は二本立てで、一つ目はウガンダとてお話いただくことにしました。一つ目のテーマでは、中島さんのご経歴に基づき、私たちと同年代の海外の子たちはどのような教育を、どのような環境で受けているのか、またその背景にある何かを学びたいと思ったからです。二つ目のテーマではコロナ禍で行動が制限されている中でも、海外とのつながりを維持したい、交流がしたいとの外とのつながりを維持したい、交流がしたいとの外とのつながりを維持したい、交流がしたいとのいる中島さんから貴重なアドバイスを頂ければといる中島さんから貴重なアドバイスを頂ければと考えました。

2 講演内容

【概要】

の現状と課題について、ジェンダー問題に注目しはじめに、ウガンダとフィリピンにおける教育

て、お話をしていただきました。

なく、公共交通機関も未整備のため、徒歩で片道なく、公共交通機関も未整備のため、徒歩で片道をの進学率は、近隣のアフリカ諸国と比較しても そがもたちが学校に行く一日を、写真を用いて紹子どもたちが学校に行く一日を、写真を用いて紹子どもたちが学校に行く一日を、写真を用いて紹子どもの仕事とされており、朝食を食べる前に毎日行わなければなりません。また、学校の数が少日行わなければなりません。また、学校の数が少りがンダは、経済成長とともに教育支援が拡大なく、公共交通機関も未整備のため、徒歩で片道なく、公共交通機関も未整備のため、徒歩で片道なく、公共交通機関も未整備のため、徒歩で片道なく、公共交通機関も未整備のため、徒歩で片道ない。



講演者の中島朋子さん

うです。さらに、生理用品・知識不足、 学校に着いても、 困難にし、 暴力などは、女子生徒が学校に通い続けることを 給料の未払い等から、 いいます。 1~2時間程、 進学率の男女差の原因となっていると 通学にかかるそうです。そして 校舎がない場合や、 教師がいないことも多いそ 人材不足や . 児童婚、

るため、 上の島々からなり、 育に力が入れられているといいます。しかしなが です。また、キリスト教徒が大多数を占めるフィ ことも一般的であるため、 労働者として活躍することが多く、管理職に就く 課題も多く残されています。まず、 方、フィリピンは、 普遍的な教育を届けることが難しいそう 約 140 語以上の言語が存在す 男性よりも女性が出稼ぎ 都市部を中心に女子教 リピンでは 7000以



く学生たち トをとりながら熱心に聞

なってい 整が課題

ま لح

す。

そして

南部の紛争地

3

オ島)では 帯(ミンダナ 影響も相まっ 貧困や災害の 国内難民

> の子どもたちへの教育支援が急務となっていると のことでした。

構築や、多文化共生の実現につながるそうです。 時に異なるからこそ、そうした姿勢が信頼関係の のではなく、常にリスペクトの心を持ち、その国 うに「先進国」が「途上国」に上から言葉を言う 国支援を行うにあたり、「北風より太陽」という いいます。また、お互いの文化間で大切なものが 言葉をモットーにされているそうです。北風のよ ついてお話をお聴きしました。中島さんは、途上 大切にされている、 人に「教えていただく」という姿勢が重要だと 次に、多文化共生を目指す上で、中島さんが日 コミュニケーションの姿勢に

【質疑応答】

り学びを深めることができました。 科目との違いなどについてお答えいただきまし るジェンダーギャップに注目した質問があり、 員の雇用問題や政府による指導体制、 た。ウガンダの教育支援に関わる質問からは、 最後に、学生からの質問に答えていただきまし フィリピンの話題については、日本とは異な 日本の授業 ょ

との価値観

教育方針の調

少数派のムス

リム向け教育

企画・運営を終えて感じたこと

zoomで中継しながら講演を行いました。途中 他に他学科の先生や学生も数名参加するため らお越しいただき、また文化交流コースの学生の 接続がうまくいかないこともありましたが、 講演会当日は中島さんに現在お住まいの青森か 様

> れ な観点の質問が飛び交うなど積極的な議論が行わ 無事に講演を終えることができました。

いきます。 ミッションを乗り越えたことを糧に、また中島さ まで学生主体で行うという文化交流コース最大の 初めての企画を前に、 んの貴重なお話を拝聴したことも今後に生かして だいた先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。 だいた中島さんをはじめ、多大なるご協力をいた 何かと不慣れな私たち学生に丁寧なご対応をいた が、何とか講演会を無事終えることができました。 私たち文化交流コースの学生は、企画から運営 私たちは文化交流コース一期生で、 期待半分、不安半分でした 前例がない



質疑応答の様子